

No.	分類	就学前 設問	就学後 設問	追加・ 削除	大項目	質問	意図	その他意見等	課
1	I ご家庭の環境	○		追加	お子さんとの家族の状況	更問：（主に子育てを担っている方は、）幼少期や学齢期を本市で過ごすなど、住み慣れた環境での子育てをしていますか？	アウェイ育児の割合を把握 アウェイ育児の方にとって子育てしやすい環境と言えるか 大項目：子どもの育ちをめぐる環境とも重なるか		こども若者総合相談支援センター
2	I ご家庭の環境	○		追加	お子さんと家族の状況	・現在居住している家屋の形態（例：一戸建て住宅、アパート等） ・家賃 ・今後引っ越す予定があるか（例：一戸建て住宅、アパート等） ・引っ越すにあたり支障となっていることはないか	当課で実施している事業が「子育てに伴う経済的な負担の軽減」の施策の一つとなっている。しかし事業を始めて使われた例は少なく、改めて事業自体のニーズがあるかを把握し、事業について検討するため。		建築物安全推進課
3	I ご家庭の環境	○		追加	子どもの育ちをめぐる環境	家庭で絵本などの読み聞かせを行っていますか？	乳幼児期の読み聞かせは、子どもが絵本や物語に興味を示すきっかけとなり、子どもの読書機会の充実や、家庭での読書習慣の定着につながります。図書館では乳児期から絵本と親しめるよう、ブックスタートや赤ちゃん向けおはなし会を開催していますが、もし家庭での読み聞かせがあまりなされていないようならば、その啓発に力を入れたいため、現状の調査を希望します。		図書館
4	II 乳幼児期の教育や保育について	○		追加		不適切保育などが問題になっているなか、保育所等における子どもの安全について求めるものは何か？	保育園での不適切保育や事故等が様々な報道されている中で、保護者が保育園に対して不安に思っていることを把握し、対策につなげる。 【選択肢例】 保育士の配置基準の見直し・増員、研修等による保育士の質の向上、カメラ設置による園内の保育状況の可視化、遊具等の点検の徹底、GPSなどICT機器を活用した見守り、園外活動における交通安全対策 等	認可外保育施設は、現在本市では届出保育施設と呼んでいるため、文言の置換が必要	保育課
5	IV 出産や子育てについて	○		追加	子育てに関する悩みや不安感	配偶者（パートナー）に関する育児参加の状況と意見	相談支援体制の充実や、こども家庭センター運営上のニーズ調査（育児参加を促すような取り組みにつなげる） 伴走型支援における課題の抽出		こども若者総合相談支援センター
6	IV 出産や子育ての考え方	○		追加	出産や子育ての考え方	必要な産前産後のサービスを利用するか 自己負担金は応援金が使えたかどうか、夫婦のどちらかが負担するのか	産後ケアや家事育児支援サービス等を提案しても、自己負担があると「夫に相談してみます」と言って利用しない妊産婦がいるが、活用できるサービスを展開するために調査できるとよい。また、出産子育て応援金が開始し、どのようなサービスに活用してもらっているかの調査も併せてできるとよい。		こども保健課
7	IV 出産や子育ての考え方	○		追加	地域との関わり	移動手段の有無と地域資源の活用方法	移動手段がなく子育て支援センターなど地域の資源を使えない親子がいるため、それが把握できる項目があるとよい。ニーズがあれば、例えば幼稚園バスを日中は支援センターへの送迎バスに活用する、民間の路線バスの利用促進につながる子育て世帯向けチケットなど、利用が少ない時間帯の資源を有効活用する方法を検討できる。	問27では、両親の体調や気持ちを聞いている。父親の産後うつが問題になりはじめているため、こどもの年齢と父親の気持ちの各項目がクロス集計できるとよい。また、全体的に父親の意見が反映できるように、問4の回答者において母親と父親が同じ割合で回答率を得られるとよい。	こども保健課
8	IV 出産や子育てについて	○		削除	出産や子育ての考え方	問23「幼児教育の無償化」による子どもの数の理想と現実 問24「幼児教育の無償化」による教育・保育事業の利用希望	令和元年10月からの幼児教育無償化に向けての質問のため		保育課
9	V 市の子育て環境・子育て支援サービス	○		追加	各種子育て支援サービス	問35の選択肢に追加 ⑩こども発達センター 子どもの発達についての相談に応じています	ことばの遅れや発達に心配のあるお子さんについての相談先としてこども発達センターを知っている人がどの程度いるのかを把握し、必要に応じて周知活動を行っていく		こども発達センター
10	V 市の子育て環境・子育て支援サービス	○		削除	各種子育て支援サービス	問35 選択肢①②	①パパママ教室は医療機関での実施に限るため、②産婦・新生児訪問は現在実施していないため、いずれも削除。他の選択肢として「産後ケア事業」があるため追加してもらえるとよい。		こども保健課

No.	分類		就学前 設問	就学後 設問	追加・ 削除	大項目	質問	意図	その他意見等	課
11	V	市の子育て環境・ 子育て支援サービ ス	○		追加	地域における子育て支援	地域子育て支援拠点事業に求めるものは何か	地域子育て支援拠点事業として、市内にはこども未来館、地域子育て支援センター（6か所）、つどいの広場（4か所）、一部の地区市民館にキッズスペースが設置されるなど、市内で遊べる場所・相談・情報提供を受けられる場所は増加している。今後更に施設を利用してもらうためには、地域の子育て支援施設に求めるものやどうすれば利用しやすい施設となるか調査し、今後の目指す姿・方向性について検討する材料とする。		こども未来館
12	V	市の子育て環境・ 子育て支援サービ ス	○		追加	個別の子育て支援施策に関する こと	豊橋市の教育・保育環境をさらに充実させる上で期待すること	質問の追加ではなく、選択肢を追加したいと考えています。（⑩～⑫を追加） ①保育所、幼稚園、学校の施設を改善する ②教師、保育士などの人数を増やす ③教師、保育士などの資質を高める ④自然とのふれあいや体験学習の機会を増やす ⑤年齢の異なる子ども同士の交流機会を増やす ⑥国際交流の機会を増やす ⑦お年寄りとの交流・福祉教育を充実させる ⑧保育所や学校等と父母の連携を密にする ⑨保育方針・学校の教育目標などを公開する ⑩企業など外部人材を活用した教育活動を充実させる ⑪地域と連携した教育活動を充実させる ⑫子どもの悩みや不安などを気軽に相談できる体制を整える ⑬その他（ ） ⑭、特に改善する必要はない <追加理由> 前回の調査以降で、民間プールでの水泳授業や企業等と連携したパートナー制度の創設など、学校現場だけでなく、外部人材を活用した教育活動を実施しているほか、コミュニティスクールを導入し、地域と連携した取り組みの充実を図ろうとしている中で、保護者の考えを把握したいため。また、不登校児童生徒が増加する中で、教育相談体制の充実について、保護者のニーズを把握したいため。		教育政策課
13	V	市の子育て環境・ 子育て支援サービ ス	○		追加	個別の施策について	子育て世代のがん検診の受診状況	仕事・家庭の両立のために、自分のことが後回しになっているのが子育て世代の現状です。ところが、子宮頸がんは30代後半・乳がんは40代後半に罹患率のピークがあるなど、子育て世代でのがん検診率の向上は、こどもたちの健やかな成長に欠かせないものと考えます。 子育て世代の受診率向上の施策検討・効果的な啓発活動の基礎資料として現在の受診状況を調査したいと考えております。		健康増進課
14	V	市の子育て環境・ 子育て支援サービ ス	○		追加	子育て環境・子育て支援サービ ス全般	・現在、持ち家（分譲マンションや中古住宅含む）に住んでいますか。 ・（住んでいないと答えた方へ）いつ頃の購入を検討していますか。 （住んでいると答えた方へ）いつ購入しましたか。現在の居住場所を選んだ理由は何ですか。（選択肢による複数回答を想定）	本課では一定の要件を満たした住宅購入者世帯に対し「歩いて暮らせるまち区域定住促進事業費補助金」を交付し、歩いて暮らせるまち区域への居住誘導を図っている。補助金では中学生以下の子を対象に「子育て奨励金」を支給しているが、子育て世帯の住居購入時期等を把握し、補助金制度の検証に用いたい。		都市計画課

No.	分類	就学前 設問	就学後 設問	追加・ 削除	大項目	質問	意図	その他意見等	課
15		○						<p>問25 (1)、(2) 選択肢について修正の提案</p> <p>2. →子供の頃から家事・子育てに男性も女性も参画すること、「男は仕事、女は家事」といった固定的性別役割分担意識の解消の必要性や仕事での男女平等の大切さについて教育を行う。</p> <p>3. →選択肢をふたつに分ける。「男性も一緒に家事・育児・教育を行う」と「働く女性への家族支援や理解の啓発を行う」の選択肢に分ける。</p> <p>(前段は家庭内で実施すること、後段は行政等が実施することで、実施する主体が異なるため。)</p> <p>7. →「長時間労働の是正などの働き方改革や、雇用や職場での処遇における男女平等の推進、教育訓練など、企業の労働条件が向上する。」</p> <p>9. →「男性が育児休業を取得しやすい環境整備や社会的理解が深まる。」</p> <p>(啓発する目的は、理解の促進であるため。)</p>	市民協働推進課

No.	分類	就学前 設問	就学後 設問	追加・ 削除	大項目	質問	意図	その他意見等	課
1	I	ご家庭の環境	○	追加	お子さんとの家族の状況	更問:(主に子育てを担っている方は、)幼少期や学齢期を本市で過ごすなど、住み慣れた環境での子育てをしていますか？	アウェイ育児の割合を把握 アウェイ育児の方にとって子育てしやすい環境と言えるか		こども若者総合相談支援センター
2	I	ご家庭の環境	○	追加	子どもの育ちをめぐる環境	学校から帰宅後、今日一日の出来事などを親子で会話する時間はありますか？	子供と親の関係性をつなぎ、強めるために重要な日常の会話が確保されることにより、健全な親子関係や子供の精神的発育の確認となる。		学校教育課
3	I	ご家庭の環境	○	追加	お子さんと家族の状況	・現在居住している家屋の形態(例:一戸建て住宅、アパート等) ・家賃 ・今後引っ越し予定があるか(例:一戸建て住宅、アパート等) ・引っ越しにあたり支障となっていることはないか	当課で実施している事業が「子育てに伴う経済的な負担の軽減」の施策の一つとなっている。しかし事業を始めて使われた例は少なく、改めて事業自体のニーズがあるかを把握し、事業について検討するため。		建築物安全推進課
4	II	学校以外の子どもの居場所について	○	追加	放課後の過ごし方	長期休暇時のこどもの状況について 長期休暇時の食事について	長期休暇の間で児童クラブ等を利用していない児童が、どのように過ごしているか。また、給食がない期間にどのような食事状況になっているのか。それに係る保護者の負担や希望などをニーズとして聞けるとよい。	こどもの意見を直接聴取する際には、中学生や高校生の思春期から青年期にある若者の意見も反映できるとよい。いずれ親になる可能性のある年代として、子育てに関する率直な意見が得るのではないか。	こども保健課
5	II	学校以外の子どもの居場所について	○	追加	放課後の過ごし方	のびるndeスクールの事業活動を知っているか	令和4年度2学期より全小学校で活動がスタートした「のびるndeスクール」について、事業に対する認知の現状を把握し、事業浸透に向けた新たなPR、周知の方策づくりを目指していきたい。	H30設問番号「10」…「放課後の過ごし方、過ごす場所の日数」のなかに「のびるndeスクール」を追記したい。	生涯学習課
6	II	学校以外の子どもの居場所について	○	追加	放課後の過ごし方	のびるndeスクールについて今後期待すること	1人でも多くの子どもたちに参加してもらえるよう、利用者からのニーズを把握し、新たな事業推進策の立案につなげていきたい。		生涯学習課
7	IV	出産や子育てについて	○	追加	子育てに関する悩みや不安感	配偶者(パートナー)に関する育児参加の状況と意見	相談支援体制の充実や、こども家庭センター運営上のニーズ調査(育児参加を促すような取り組みにつなげる)		こども若者総合相談支援センター
8	IV	市の子育て環境・子育て支援サービス	○	追加	個別の子育て支援施策に関する こと	豊橋市の教育環境をさらに充実させる上で期待すること	質問の追加ではなく、選択肢を追加したいと考えています。(⑩～⑫を追加) ①学校の施設を改善する ②教師などの人数を増やす ③教師などの資質を高める ④自然とのふれあいや体験学習の機会を増やす ⑤年齢の異なる子ども同士の交流機会を増やす ⑥国際交流の機会を増やす ⑦お年寄りとの交流・福祉教育を充実させる ⑧学校等と父母の連携を密にする ⑨学校の教育目標などを公開する ⑩企業など外部人材を活用した教育活動を充実させる ⑪地域と連携した教育活動を充実させる ⑫子どもの悩みや不安などを気軽に相談できる体制を整える ⑬その他() ⑭. 特に改善する必要はない <追加理由> 前回の調査以降で、民間プールでの水泳授業や企業等と連携したパートナー制度の創設など、学校現場だけでなく、外部人材を活用した教育活動を実施しているほか、コミュニティスクールを導入し、地域と連携した取り組みの充実を図ろうとしている中で、保護者の考えを把握したいため。また、不登校児童生徒が増加する中で、教育相談体制の充実について、保護者のニーズを把握したいため。		教育政策課
9	IV	市の子育て環境・子育て支援サービス	○	追加	個別の子育て支援施策に関する こと	子育て世代のがん検診の受診状況	仕事・家庭の両立のために、自分のことが後回しになっているのが子育て世代の現状です。ところが、子宮頸がんは30代後半・乳がんは40代後半に罹患率のピークがあるなど、子育て世代のがん検診率の向上は、こどもたちの健やかな成長に欠かせないものと考えます。子育て世代の受診率向上の施策検討・効果的な啓発活動の基礎資料として現在の受診状況を調査したいと考えております。		健康増進課
10	V	市の子育て環境・子育て支援サービス	○	追加	個別の子育て支援施設に関する こと	問29 ⑦こども発達センター 子どもの発達についての相談に応じています	ことばの遅れや発達に心配のあるお子さんについての相談先としてこども発達センターを知っている人がどの程度いるのかを把握し、必要に応じて周知活動を行っていく		こども発達センター

No.	分類		就学前 設問	就学後 設問	追加・ 削除	大項目	質問	意図	その他意見等	課
11	V	市の子育て環境・子育て支援サービス		○	追加	子育て環境・子育て支援サービス全般	<p>・現在、持ち家(分譲マンションや中古住宅含む)に住んでいますか。</p> <p>・(住んでいないと答えた方へ)いつ頃の購入を検討していますか。</p> <p>・(住んでいると答えた方へ)いつ購入しましたか。現在の居住場所を選んだ理由は何ですか。(選択肢による複数回答を想定)</p>	<p>本課では一定の要件を満たした住宅購入者世帯に対し「歩いて暮らせるまち区域定住促進事業費補助金」を交付し、歩いて暮らせるまち区域への居住誘導を図っている。補助金では中学生以下の子を対象に「子育て奨励金」を支給しているが、子育て世帯の住居購入時期等を把握し、補助金制度の検証に用いたい。</p>		都市計画課
12				○					<p>問19 (1)、(2)選択肢について修正の提案</p> <p>2. ⇒子供の頃から家事・子育てに男性も女性も参画すること、「男は仕事、女は家事」といった固定的性別役割分担意識の解消の必要性や仕事での男女平等の大切さについて教育を行う。</p> <p>3. ⇒選択肢をふたつに分ける。「男性も一緒に家事・育児・教育を行う」と「働く女性への家族支援や理解の啓発を行う」の選択肢に分ける。(前段は家庭内で実施すること、後段は行政等が実施することで、実施する主体が異なるため。)</p> <p>7. ⇒「長時間労働の是正などの働き方改革や、雇用や職場での処遇における男女平等の推進、教育訓練など、企業の労働条件が向上する。」</p> <p>9. ⇒「男性が育児休業を取得しやすい環境整備や社会的理解が深まる。」(啓発する目的は、理解の促進であるため。)</p>	市民協働推進課
13				○					<p>ヤングケアラーについて: 対象児童の年齢が11歳以下であるため現に家族の介護を担っている児童がいるとは考えにくいかもしれませんが、ヤングケアラーの社会的認知度を向上させる意味でもヤングケアラー(及びその予備軍)に対する設問があってもよいのではないのでしょうか。</p>	長寿介護課